

29年度 学校評価における自己評価について

認定こども園 鳥取第四幼稚園

1. 園の教育目標

- 〈ゆたかで やさしく たくましいこども〉(3歳以上児)
- 自ら目標をもってたくましく活動する子ども
 - 友達の気持ちを思いやり、協力し合って遊べる子ども
 - 素直に感動する心を持ち、感動を創造豊かに表現できる子ども
 - 豊かな生活経験の中から物事を知的に理解し、判断できる子ども
 - 豊かな感性を持ち「生きる力」を身につけた子ども
- 〈こころも からだも すこやかに そだちあうこども〉(3歳未満児)
- こころも身体健やかで元気いっぱい遊ぶ子ども
 - 保育者や友達に親しみ、心地良さや安らぎを感じ取れる子ども
 - やさしくて思いやりのある子ども
 - 感じたこと思ったことをのびのびと表現する子ども
 - 物事に感動し、感性豊かな子ども

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や、計画を元に設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 「豊かなこころ」を育てる教育・保育を行う
 - ・乳児期における愛着形成を基礎とした情緒の安定や他者への信頼感の醸成、幼児期における他者とのかわりや基本的な生きる力の獲得及び学童期にあける心身の健全な発達を通じて、ひとりひとりがかけがえのない個性ある存在として認められるとともに、自己肯定感をもって育まれる環境を整備し、子ども達の健やかな発達を目指す。
 - ・29年度は特に「異年齢交流」を通して、こども園内でのつながりを深め、子ども達の交流が豊かになるよう保育計画を立て、保育を実践した。

3. 評価項目の達成および取組状況

(1) こどもの好奇心を育み、思考力判断力を高めながら、豊かな心を育てる保育を計画・実践する。	B	季節の移り変わりや社会事象を敏感に受けとめ、その時しかない保育環境をうまくつかみ発展させることが不十分だったと思う。今後も計画的な取り組みが必要だと考える。子どもの好奇心を引出し、豊かな体験が得られるような、教育・保育計画を立てていく必要がある。
(2) 園生活の中で、異年齢交流を行う機会を設け、園児一人ひとりの発達に合わせた教育支援を考え、共に育つ心の教育を充実させる	A	こども園としての特徴を生かし、0歳から6歳児までの子どもの発達を多面的にとらえ、子ども通しのつながりが自然の生まれ、互いに助け合い、譲り合い、協調性を高める保育が行われるよう心掛けた。 集団生活の場で、子ども達が育ちあう機会を設けることにより、人間関係の広がりが見られ、心が通い合う姿が見られた。

<p>(3) 教職員の資質向上のための研究保育を充実させ、幼児理解や保育の在り方について考える</p>	<p>A</p>	<p>こども園の特性としての保護者のニーズもあり、利用時間の要望などから、長時間児・短時間児・1号認定児など、それぞれの子ども達への配慮は十分できた。園内研修等での教育的な効果も得られ、保護者の理解もある。こどもの発達理解を深め、保育の組み立て方や、幼児の心の葛藤の読み取りなど、園内研修を通して深めることが出来た。また、異年齢交流を通し、教師全体で園全体のこどもへの関心も深まり、支援の仕方の研修も広がった。</p>
<p>(4) 健康・安全に関する教育活動について共通理解し、災害時の園児の安全確保・保護者対応など地域の特性を考えながら安全な環境づくりや、安全教育を進める。</p>	<p>A</p>	<p>園内での「安全指導」「避難訓練」などは充実しており、子ども達には浸透していることを感じている。また、保護者への啓発も地域の交通安全協会の方々と一緒に行うことができ、チャイルドシートの着用や送迎時の安全確認、保護者参加の風水害の避難訓練など計画通り行うことができた。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
<p>A</p>	<p>地域の中でのこども園への理解はおおむね得られ、近隣の小学校・地域の公民館・老健施設等の交流も定着し、地域との交流も深まっている。また、子育て支援の事業にも多くの未就園児親子の参加があり、地域貢献もできていると考える。園の教育・保育についても保護者からの信頼は得られている。</p> <p>安全教育も、想定外の有事に際し柔軟にかかわれるような体制づくりを考え、職員全体で迅速な対応ができるよう工夫した。</p> <p>保護者からの相談や、支援の状況については、まだまだ不十分な点もあるので、今後も丁寧に関わり、園児ひとりひとりのしっかりとした育ちを感じ満足してもらえるような園運営を心掛けたい。</p>

5. 今後の取り組むべき課題

<p>保育の形態に合わせた、保育内容・保育計画の充実を図る</p>	<p>乳児部・幼児部・非常勤職員などの職員間の連携を深め、職員全体で研究に取り組み、より良い幼児教育が行える体制を充実させる。また、園児の成長発達の理解を深め、園全体の子ども達が関わりながら、豊かな心を育てる保育を展開するようにする。</p> <p>また、今後も職員の共通理解を深められるよう、各年次・各担当の会議を充実させ、職員間の情報交換を丁寧に行い、お互いの職務の理解と、園児すべての子どもに対する理解を深め支援の充実を図るようにする。</p>
<p>避難訓練・安全指導の充実を図る</p>	<p>園生活の中で起こりうる園内事故について職員全体で把握し、怪我の対応や落ち着いて協力しながら園児の命と安全を守る行動ができるよう、研修を積みながらしっかりとした園体制を作っていく。今後は園外の警察官などの講師を依頼し、実体験型の避難訓練を計画していきたい。</p> <p>園舎の老朽化も見られるようになってきたので、保育室・トイレ・ホールなど園舎の安全点検もしっかりと行き、不安に思う不備の場所は速やかに修繕し、安心して安全な環境を整備するように努める。</p>